

「学校長期自然体験活動指導者養成研修」

- ◆期 日 〔第1回〕平成21年10月10日（土）～10月12日（月）【2泊3日】
〔第2回〕平成21年11月21日（土）～11月23日（月）【2泊3日】
- ◆会 場 国立能登青少年交流の家
- ◆対 象 青少年教育関係者、学校関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある方で、小学校の長期自然体験活動の全体指導者として活動・協力する意志のある20歳以上の方。
- ◆参加者 〔第1回〕36名（大学生27名，社会人9名）
〔第2回〕34名（大学生18名，社会人16名）
- ◆講 師 平田 裕一（中京女子大学教授），寺脇 研（京都造形芸術大学教授）
松本 謙一（富山大学教授），池田 幸應（金沢星稜大学教授）
平井 敦夫（金沢学院大学教授）
羽咋消防署員，国立能登青少年交流の家企画指導専門職
- ◆主 催 国立能登青少年交流の家
- ◆後 援 新潟・富山・石川・福井・滋賀各県教育委員会

1 趣 旨

小学校が実施する長期自然体験活動において、教育効果の高い自然体験・生活体験の機会を提供するために、プログラム計画立案の助言，関係機関・講師の紹介といったコーディネート，活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言，事業評価の助言などを行う全体指導者を緊急に養成する。

2 ねらい

- ・ 小学校が実施する長期自然体験活動の全体指導者として，必要な知識や技能を養う。
- ・ 講義や参加者同士の交流を通して，全体指導者としての自覚を高める。



自然体験活動の技術



救命救急法

3 日程

【10月10日(土)】・【11月21日(土)】

日時	項目	活動名・講師	活動内容等
10:00～12:00	学校教育における体験活動の意義	【講義】『学校教育における体験活動の意義』 【第1回】 中京女子大学教授 平田 裕一 氏 【第1回】 京都造形芸術大学 寺脇 研 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の目的やねらい ・プログラム・アクティビティの理解 ・体験活動でのリスクマネジメント ・指導者に求められること等
13:00～14:00	自然体験活動の技術	【実習】『アイスブレイク』 国立能登青少年交流の家 企画指導専門職	
14:00～16:00	自然体験活動の技術	【実習】『オリエンテーリング』 国立能登青少年交流の家 企画指導専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーリングの実施方法 ・オリエンテーリングにおける安全管理 ・オリエンテーリングの実習
17:00～19:00	教育課程と体験活動の関連性	【講義】『教育課程と体験活動の関連性』 富山大学教授 松本 謙一 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領にみる教育目標、長期体験活動の位置づけ ・なぜ「自然」を扱うのか(事例から) ・教育課程上での実践の鍵(事例から)

【10月11日(日)】・【11月22日(日)】

日時	項目	活動名・講師	活動内容等
8:30～11:00	プログラムの企画立案	【講義演習】『プログラムの企画立案』 富山大学教授 松本 謙一 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程上での実践の鍵 ・教材研究の基本 ・プログラムの実際 ・グループ毎にプログラムの企画立案
11:00～14:00	体験活動の指導法 自然体験活動の技術	【実習】『野外炊飯』 金沢星稜大学教授 池田 幸應 氏 国立能登青少年交流の家 企画指導専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・野外料理の基本テクニック ・グループ毎にメニューの話し合い ・野外炊飯の実習
14:00～16:00	安全管理	【講義】『体験活動と安全管理』 金沢学院大学教授 平井 敦夫 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心のための対策と心構え ・救急処置と緊急連絡体制の確立 ・指導者の責任 ・事故の事例等

16:00～18:00	体験活動の指導法	【演習】『安全なテント設営』 金沢星稜大学教授 池田 幸應 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界における危険と安全 ・テント設営の手順 ・テントの撤収について ・テント設営の実習
19:00～21:00	体験活動の指導法	【講義】『自然や人との関わりを楽しむ、指導しながら指導力を身に付ける』 金沢星稜大学教授 池田 幸應 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを囲む社会環境 ・指導者の資質 ・指導者の役割 ・安全指導について

【10月12日(月)】・【11月23日(月)】

日時	項目	活動名・講師	活動内容等
9:30～12:00	プログラムの企画立案	【講義演習】『企画立案したプログラムの発表』 富山大学教授 松本 謙一 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・企画立案したプログラムの発表 ・講評 ・まとめ(子どもの言動への対応)
13:00～16:00	安全管理	【実習】『救命救急法』 羽咋消防署 救命救急士 他4名	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急法(心肺蘇生法・AED)の基本技術の習得



プログラムの企画立案



体験活動の指導法

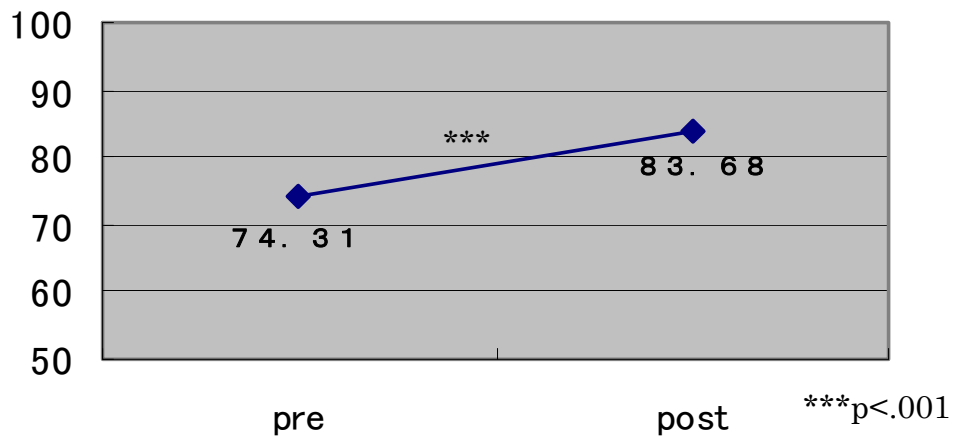
4 成果と課題

(1) 事前・事後調査による事業分析

事業評価を目的とし、参加者70名を対象に調査を実施した。調査項目は、「生き方尺度」28項目⁽¹⁾を使用した。

受講前を事前とし、受講後を事後として回答を依頼した。事前事後それぞれの平均値を算出し、t検定によって比較したものが図1である。図1でも明らかなように、事前と事後を比較すると平均値が大幅に向上した。したがって、本事業を経たことで、参加者に何らかの変容が見られ、平均値が向上したと考えられる。

図1 事前事後における平均値の比較



具体的に、本事業のどのような要素が参加者に変容をもたらしたのかを調べるために、28項目の調査項目を3つのグループ（表1）にまとめた。そのグループを用い、それぞれのグループにおける平均値を算出し、事前事後で比較した結果を表2に示した。

表1 調査項目のグループ分け

第1グループ 対人関係	3	他者との関わりを大事にする
	5	他人と争うようなことはしたくない
	8	何事も人間一人の力で出来るものでないから、お互いの協力を大事にする
	10	周囲の人と利害関係をはなれた付き合いをする
	13	他人には誠実な心を持って接する
	15	他人をないがしろにしない
	20	自分の欲望のためには他人に迷惑をかけても構わない
第2グループ 自己肯定感	4	過去の失敗をくよくよ後悔しない
	7	自らを創造・開発していく
	9	何かに失敗しても混乱したり絶望したりしない
	12	将来に希望と期待をいただいている
	24	自分自身の行為に自信を持っている
	27	かけがえのない生命を精一杯生きる
	28	自分のよい面は否定せずに素直に受け入れる

第3グループ 精神的・社会的 自立	1	努力をおしまずに、自分のできることに向かって完全燃焼する
	2	自分の持っている潜在的可能性を追求しつづける
	6	自分のやることに最善の努力を尽くす
	11	時間や物を無駄にしない
	14	事実をわだかまりなく、さっぱりと受け入れる
	16	今という時を大切にす
	17	何事も自分のことは自分でやる
	18	自分のやるべきことは責任を持ってやり遂げる
	19	自分自身にこだわりを持たない
	21	義務や責任を進んで果たす
	22	自分の中に好まない面を見つけたら、隠すよりも良くしていこうとする
	23	出来るだけ多くの物事を見聞きしようとする
	25	何か自分の出来ることに専心(専念)する
	26	何事にも興味と好奇心を持って接する

表2 グループごとの平均値比較の結果

	第1グループ 対人関係	第2グループ 自己肯定感	第3グループ 精神的・社会的自立
事前	20.50	17.21	36.60
事後	21.53	20.28	41.87
t 値	3.06**	8.10***	7.51***

p<.01 *p<.001

表1には、28項目を3つのグループに分けた結果を示した。第1グループは、7項目で構成されており、人との関わりに必要な要素についての内容がみられることから「対人関係」と命名した。第2グループは、7項目で構成されており、自己を受容したり肯定したりする要素が含まれた内容であることから、「自己肯定感」と命名した。第3グループは、14項目で構成されており、「精神的・社会的自立」と命名した。

表2からも明らかなように、すべてのグループにおいて平均値が向上している。したがって、対人関係や自己肯定感、精神的・社会的自立の要素において、本事業が参加者の意識の変容に影響を及ぼした可能性がある。

[参考引用文献]

(1)板津裕己, 生き方尺度, 心理測定尺度集, サイエンス社, pp417-421

(2) 成果と課題

《成 果》

- ・今年度目標の40名を超える69名が修了し、「全体指導者」として登録することができた。
- ・幅広い年齢層から参加を得ることができ、学生と社会人がお互いにより刺激を受けながら研修を受けることができた。
- ・企画指導専門職が研修の一部で講師となることによって、専門職としての技術や知識について再確認したり、新しいプログラムを試したりすることができた
- ・講師依頼や学生の参加依頼を通して、周辺大学の教授・准教授とのネットワークを新たに築くことができた。

《課 題》

- ・2泊3日の日程は、スケジュールが過密で余裕がない。平日を使ってもう1泊をかけて行えないか検討する必要がある。
- ・修了者の意欲を生かしたり次年度以降の広報に役立てたりするために、学校等の協力を得ながら、修了者が活躍する場をコーディネートしなければならない。
- ・今後、実際に指導するにはまだまだ経験が不足しているため、受講者同士による「模擬指導」や、実際に子どもを指導してみるなど、上級者用のカリキュラムでフォローアップ研修会も開催していく必要がある。

